

域内循環による地域経済の成長

- 別府市は、コロナ禍前には年間約900万人の観光客に訪れていただいており、**観光消費により宿泊業・飲食業が外貨を稼ぐ**構図となっている。
- 一方で、製造業や農林水産業の規模が小さいため、**原材料等を市外から調達している事例が多く**（自給率が低い）、**稼いだ外貨を市外に流出**させてしまっている状況。
- 今後、**より多くの外貨を稼ぐ**とともに、**市内からの仕入れや消費を増加**させ、**域内経済の好循環**を図っていく必要がある。



観光客の入り込みにより得た外貨（観光消費額）を域外に流出させず、域内循環を図り拡大再生産させていくという成長サイクルの構築

- ・地域内支出の増加による地域事業者の所得向上、**税込アップ**。
- ・より魅力ある観光地づくりへの**投資拡大**による観光消費額の増加。
- ・地域における経済活動の活性化による、**地域住民の利便性、暮らしやすさの向上**。

→ 持続可能な観光地、住民と観光客のWell-beingの向上

外貨獲得については、観光消費額の増加とともに、**コストの削減（＝労働生産性の向上）**の観点も重要。

利益 = 売上 - 費用

最大化 増加 削減

別府市における地域経済循環の状況

地域経済循環率

3,501億円 / 4,396億円
= 79.6%

79.6%

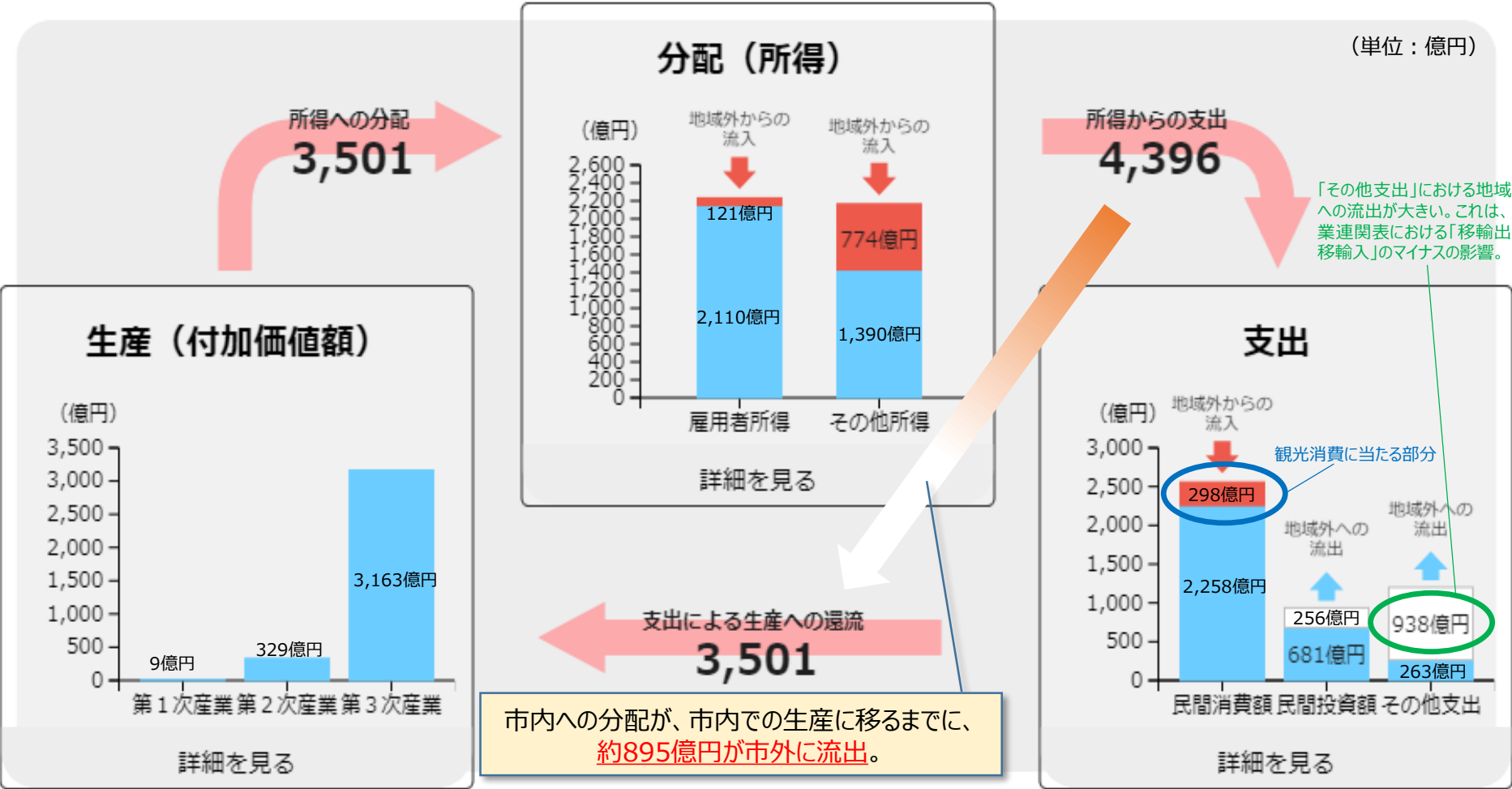
【推移】
79.6% (2010年) → 80.9% (2013年) → 78.8% (2015年)

地域経済循環図

2018年

指定地域：大分県別府市

地域経済循環率は、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値。地域経済の自立度を示す。値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。



【出典：RESAS（地域経済分析システム）による地域経済循環図をもとに作成】

他方で、別府市全体として域外流出が生じていることはわかるが、個別事業者の実態レベルまでは把握できていないことが課題。ここを明らかにして、その改善に向けた対策を立てる必要がある。

別府観光あり方検討会議

- 別府市では、2021年9月に「別府観光あり方検討会議」を設置し、コロナ収束後を見据えた持続可能な観光を支える4つの柱（①ユニバーサルツーリズム、②観光DX、③免疫力日本一宣言、④食×観光）について検討を行い、同年12月に政策提案をとりまとめた。
- 同提案では、コロナ収束後を見据え、旅行に対する価値感や観光需要の変化に対応した持続可能な観光地としての体制構築及び将来の反転攻勢のための基盤整備のため、上記4本柱を核として、これからの理想の別府観光のあり方を描いた。

1. 別府観光における解決すべき課題

- ① 1人当たりの観光消費額が低く、平均宿泊数が少ない
- ② 全国と比較して観光業への依存が強い
- ③ 観光業の生産性向上と域内循環向上の必要性

平均宿泊数は、沖縄県や北海道、スキーの盛んな地域は多いが、温泉地は少ない傾向。その中で、湯治で有名な玉川温泉（秋田）は平均を上回っている。

就業者は、全国と比べて、「製造業」「農林業」は相対的に少なく、「医療・福祉」「宿泊・飲食」は相対的に多い。コロナ禍において、産業の偏りが与える影響は甚大。

沖縄県と比較し、宿泊稼働の波が大きい（平日の稼働が少ない）。平日の雇用を減らすことにより非正規雇用が多くなる傾向。観光産業の生産性の低さにつながっている。

それぞれのテーマにおいて、①どの課題を解決するか、②そのために何を提案するか、③その提案によりどんな効果が見込まれるか、④具体的にどのような支援が必要かという視点から政策提案を行った。

2. 政策提案（要点）

①ユニバーサルツーリズム

－高齢者・障がい者（長期滞在や平日の宿泊が多い傾向）の方々の受入れを促進し、日本一のユニバーサルツーリズム都市を目指すため、市内バリアフリーツアー関係者と連携して広報や受入環境整備に向けたソフト面の拡充に取り組む。

②観光DX

－旅マエ・旅ナカの情報提供とデータに基づくマーケティングによる観光消費単価上昇や別府ファン・リピーター増加を目指し、独自宿泊予約サイトや市公式観光WEBサイト等の観光データ活用基盤の整備と普及促進、データ分析による効果検証と改善に取り組む。

③免疫力日本一宣言

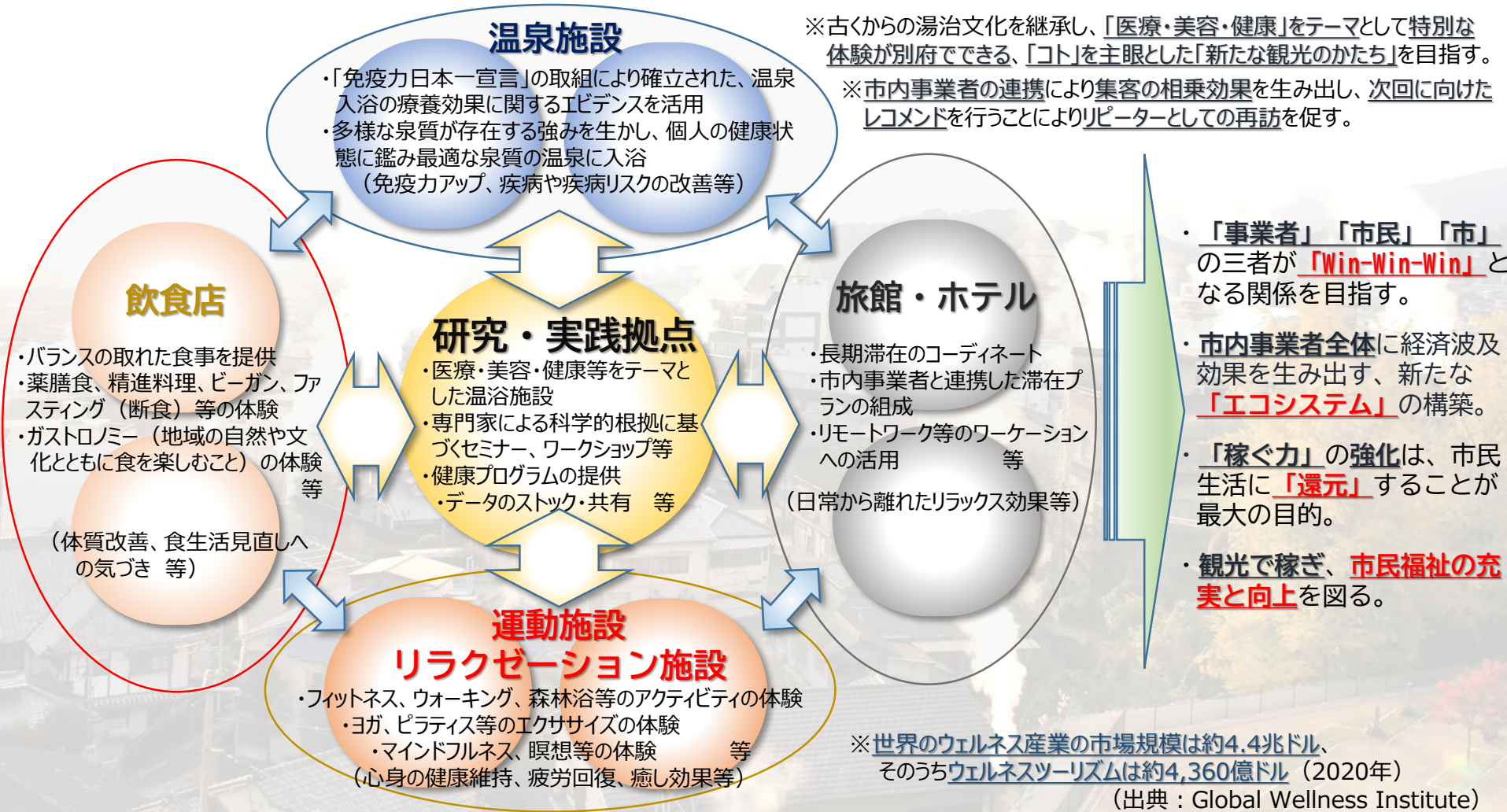
－エビデンスを伴った湯治によるワーケーション誘致や滞在日数増加を目指し、一般旅行客の健康増進効果を示すデータ収集や湯治文化の理解促進、免疫力を高める旅行商品パッケージの開発等に取り組む。

④食×観光

－観光業と農業、双方の生産性と域内経済循環の向上を目指し、飲食・宿泊事業者と農家が定期的に情報交換する環境を整え、別府を中心とした農産物の情報発信、担い手の育成を図るため、両者をつなぐプラットフォームの創設等に取り組む。

「新湯治・ウェルネスツーリズム事業」

～研究・実践拠点をコアとして、市内事業者のポテンシャルを活かした連携により、別府全体で取り組む「新たな価値の創造」～



＜期待される効果＞

“『新湯治・ウェルネス』といえば別府”というブランディングの確立

- 【観光客】・・・気軽に楽しみながら健康づくり、自らの心身の健康の維持・増進に対する気づき、旅行に対する新たな付加価値
- 【事業者】・・・新たな観光客（ウェルネストラベラー）・ハイエンド層の取り込み、長期滞在・リピーターの獲得、他の温泉地との差別化
- 【市民】・・・健康増進施設としての活用（利便性の向上）、定期的なプログラムの体験、健康維持・病気予防による健康寿命の延伸
- 【市】・・・土地使用料収入、法人税・入湯税・固定資産税等の増収、雇用創出（UIターン促進）、医療費抑制